

日医ニュース

2019. 11. 20 No. 1397

日本医師会
Japan Medical Association

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail wwwinfo@po.med.or.jp
http://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



- トピックス**
- 財政審の議論を受けて日医の見解を示す 2面
 - 第28回被災者健康支援連絡協議会 4面
 - 勤務医座談会(最終回) 8面

日本医師会設立72周年記念式典並びに医学大会

長きにわたり、医学・医療の発展に貢献してきた功労者を顕彰

記念式典並びに医学大会には、堀憲郎日本歯科医師会会長、山本信夫日本薬剤師会会長の他、ミゲル・ジョルジュ世界医師会(WMA)会長、モニアガラワルアジア大洋州医師会連合会会長ら、海外からも多くの来賓が出席した。冒頭、あいさつした横倉義武会長は、「医師と患者という縁から信頼関係を結び、患者の生命・健康を最も身近で守り続ける存在が、かかりつけ医である」と強調。そのかかりつけ医が中心となって、「防ぎ・治し・支える医療」を国民に提供していくことが、人生100年時代の医療を生



日本医師会設立72周年記念式典並びに医学大会

生100年時代の医療を象徴する姿であり、今後目指すべき医療の方向性であると示した。また、「AIやICT等の医療への活用によって、医師による十分な診療時間を確保し、患者の満足度を高めていくことが、病ではなく人を診るという、本来の医師・患者関係を取り戻し、ひいてはかかりつけ医の普及拡大につながる」として期待感を表明するとともに、健康長寿社会の実現に向けた取り組みを深化させていく決意を改めて示した。

日本医師会設立72周年記念式典並びに医学大会が11月1日、日医会館大講堂で開催された。当日は、日本医師会最高優功賞・優功賞・医学賞・医学研究奨励賞の授与の他、ノーベル生理学・医学賞受賞者の大村智北里大学特別栄誉教授による特別講演などが行われ、受賞者の長きにわたる功績を称えた(受賞者一覧は5面参照)。

来賓あいさつでは、まず、加藤勝信厚生労働大臣の祝辞を自見はなこ厚労大臣が代読。「本大会を通じて、本日受賞者の功績を、会員の先方に披露することは、日医ばかりでなく、わが国の医学研究・医療の発展にもつながるものと考えている」とした上で、「厚労省としても、その後押しができるよう、医療提供体制の構築、医学研究・開発の発展に努めていきたい」と述べた。

SとUHCに関する国連ハイレベル会合に出席したことを挙げ、感謝の意を示すとともに、今後もWMAとして、医療の質の向上に向けた活動に対する協力を続けていく考えを示した。引き続き、その他の来賓者が紹介された後、表彰式に移り、受賞者に対して、横倉会長から表彰状と記念品目録が授与された。

午後には、日本医師会医学賞受賞者による「がん遺伝子RETと細胞運動制御因子RhoGの発見と機能に関する研究」(高橋雅英名古屋大学大学院医学系研究科教授)、「健康寿命に関する疫学研究と健康寿命延伸に向けた提言」(辻一郎東北大学大学院医学系研究科教授)の授与、「福山型筋シストロ

フィーを含めた糖鎖合成異常症の系統的な解明・治療に関する研究」(戸田達史東京大学大学院医学系研究科教授)の3講演が行われた。

その後は、大村智北里大学特別栄誉教授が「北里柴三郎先生が求められたものを求めて」と題して、特別講演を行った。大村栄誉教授は、北里生命科学研究所に入ってから、ノーベル生理学・医学賞を受賞するまでの

研究の経緯などを説明。研究に当たっては、北里先生の「予防医学を重視する」一問研究は国民の幸福のためにある」との教えを胸に、美学の精神に基づいて研究を続けてきたとした。

自身動物に寄生しているせん虫の研究を基に企業の協力も得て、開発した。より多くの方々に認めて深く感謝申し上げたい」と述べるとともに、ロゴマーク決定を機に、日医ホームページ内に「いい医療の日」のサイ

「リンパ系フィラリア症」などの病気が守られ、食料の増産にもつながっている。(2)日本においても、「糞線虫症」「疥癬」の減少が見られている。ことなどを紹介。その成果を強調するとともに、「何年かすれば、これらの病気が世界から無くなるだろう」と予測した。

また、研究活動の他にも世話になった人々のために、予防医学を普及させるためのセミナーの開催、山梨科学アカデミーや美術館の創設、人材育成にも取り組んでいることを紹介。「育てた人達の協力によって、ノーベル生理学・医学賞を受賞することもできた」とし、人材育成の重要性を強調した。

なお、白寿会員64名、米寿会員867名の慶祝者には、更なる長寿を祈念して、後日、銀盃が贈呈された。



城守常任理事 「いい医療の日」ロゴマーク発表!



日医では、創立記念日である11月1日を「いい医療の日」として制定しているが、その日に国民に改めて、自身や家族の健康について考えてもらいたいという思いも込められていた。このたび、その日のロゴマークのデザインを考



大村特別栄誉教授

した医薬品「イベルメクチン」については、この薬を投与することで、(1)今ではアフリカで3億人の人が「オンコセルカ」や美術館の創設、人材育成にも取り組んでいることを紹介。「育てた人達の協力によって、ノーベル生理学・医学賞を受賞することもできた」とし、人材育成の重要性を強調した。



キーワード 受診時定額負担とは

初診・再診料における定率の窓口負担とは別に、一定の金額を患者から徴収しようとする仕組み。日医は、社会保障としての国民皆保険の理念に反するものだと、かねてよりその導入に強く反対している。

報酬本体改定率が賃金・物価水準よりも伸びていると使用されているグラフが、指数的の動向はどの年度を起点とするか大きく

し、診療所が病院を上回っていることから、結果として必要な点数配分がなされていないのではないか」と指摘している。

横倉会長は、「民間病院がまず地域に必要な医療機能を各病院が考案することが基本であり、病床が稼働しなければ、それに合わせてダウンサイジングをしていき、その部分に補助をすることが必要である」と強調した。

中川副会長は「急性期から回復期への病床転換」「官民合わせて過剰となる約13万床の病床削減」「病床機能転換、病床の整理・合理化を積極的に図る民間病院等については、今後3年程度に

限って集中再編期間として、大胆に財政支援をすべき」との提言について、医療法における地域医療構想の理念を示した上で、「同諮問会議はできるだけ前倒しで再編等を進めたいのだと思われるが、拙速な議論を誘発し、地域医療構想の基本コンセプトである自主的な取れんを阻害する」と反論。

また、急性期から回復期への病床転換については、日医がさまざまな場面で説明してきたにもかかわらず、依然として回復期機能を担う病床が各構想区域で大幅に不足しているとの誤解されていることに強い不快感を示した。

緊急記者会見

横倉会長

財政審の議論を受けて 日医の見解を示す

横倉義武会長は11月1日、緊急記者会見を行い、同日に開催された財務省

の財政制度等審議会財政制度分科会で医療分野について議論が行われたことに対する日医の見解を明らかにした。

冒頭、横倉会長は、「何も反論しなかった場合、財政審等の議論や提言が既成事実化してしまう」と危機感を示し、今後も適宜意見表明していく考えを示した。

また、政府が産業界に改めて賃上げを要請するなど他の産業が賃上げを行う中で、全就業者の11.9%を占める医療・福祉従事者にも適切な手当てを行うことの必要性を強調。「医療従事者だけが取り残されることがないようにしなくてはならない」と述べるとも

「それにより、経済の好循環が達成できるだけでなく、特に医療従事者の就業率が高い地方等では、地方創生の多大な貢献につながる可能性がある」とした。

その他、一般病院と一般診療所の収益率を比較し、診療所が病院を上回っていることから、結果として必要な点数配分がなされていないのではないか」との指摘に対し

「国民にとって良いとは言えない案」と断言。「大きなリスクは共助、小さなリスクは自助」という議論もあるが、公的医療保険には、既に、小さなリスクは「定率負担」、大きなリスクは「高額療養費」で対応するという基本的な考え方が組

み込まれており、受診時定額負担は、こうした基本的考え方を大きく転換するもの」と述べた上で、公的医療保険では最大3割とする患者負担の原則を破ることは容認できないとの姿勢を示した。

その上で同会長は、「財政論に基づくリスクに応じた保険理論と、社会保障としての国民皆保険と理解を求めた。

「診療報酬の引き上げは地方創生にもつながる」と述べるとも、これまでに日医として繰り返して主張してきたにもかかわらず、今回も恣意的な資料が提出されたことに不快感を示した。

また、政府が産業界に改めて賃上げを要請するなど他の産業が賃上げを行う中で、全就業者の11.9%を占める医療・福祉従事者にも適切な手当てを行うことの必要性を強調。「医療従事者だけが取り残されることがないようにしなくてはならない」と述べるとも

「それにより、経済の好循環が達成できるだけでなく、特に医療従事者の就業率が高い地方等では、地方創生の多大な貢献につながる可能性がある」とした。

その他、一般病院と一般診療所の収益率を比較し、診療所が病院を上回っていることから、結果として必要な点数配分がなされていないのではないか」との指摘に対し

「国民にとって良いとは言えない案」と断言。「大きなリスクは共助、小さなリスクは自助」という議論もあるが、公的医療保険には、既に、小さなリスクは「定率負担」、大きなリスクは「高額療養費」で対応するという基本的な考え方が組

み込まれており、受診時定額負担は、こうした基本的考え方を大きく転換するもの」と述べた上で、公的医療保険では最大3割とする患者負担の原則を破ることは容認できないとの姿勢を示した。

その上で同会長は、「財政論に基づくリスクに応じた保険理論と、社会保障としての国民皆保険と理解を求めた。

また、急性期から回復期への病床転換については、日医がさまざまな場面で説明してきたにもかかわらず、依然として回復期機能を担う病床が各構想区域で大幅に不足しているとの誤解されていることに強い不快感を示した。



「診療報酬の引き上げは地方創生にもつながる」と述べるとも、これまでに日医として繰り返して主張してきたにもかかわらず、今回も恣意的な資料が提出されたことに不快感を示した。

また、政府が産業界に改めて賃上げを要請するなど他の産業が賃上げを行う中で、全就業者の11.9%を占める医療・福祉従事者にも適切な手当てを行うことの必要性を強調。「医療従事者だけが取り残されることがないようにしなくてはならない」と述べるとも

「それにより、経済の好循環が達成できるだけでなく、特に医療従事者の就業率が高い地方等では、地方創生の多大な貢献につながる可能性がある」とした。

その他、一般病院と一般診療所の収益率を比較し、診療所が病院を上回っていることから、結果として必要な点数配分がなされていないのではないか」との指摘に対し

「国民にとって良いとは言えない案」と断言。「大きなリスクは共助、小さなリスクは自助」という議論もあるが、公的医療保険には、既に、小さなリスクは「定率負担」、大きなリスクは「高額療養費」で対応するという基本的な考え方が組

み込まれており、受診時定額負担は、こうした基本的考え方を大きく転換するもの」と述べた上で、公的医療保険では最大3割とする患者負担の原則を破ることは容認できないとの姿勢を示した。

その上で同会長は、「財政論に基づくリスクに応じた保険理論と、社会保障としての国民皆保険と理解を求めた。

日医 定例記者会見 10月30日 経済財政諮問会議を受けて



横倉義武会長は、10月28日に開催された経済財政諮問会議において、社会保障制度改革について議論が行われたことを受け、日医の見解を説明した。

横倉会長は、「民間病院がまず地域に必要な医療機能を各病院が考案することが基本であり、病床が稼働しなければ、それに合わせてダウンサイジングをしていき、その部分に補助をすることが必要である」と強調した。

中川副会長は「急性期から回復期への病床転換」「官民合わせて過剰となる約13万床の病床削減」「病床機能転換、病床の整理・合理化を積極的に図る民間病院等については、今後3年程度に

限って集中再編期間として、大胆に財政支援をすべき」との提言について、医療法における地域医療構想の理念を示した上で、「同諮問会議はできるだけ前倒しで再編等を進めたいのだと思われるが、拙速な議論を誘発し、地域医療構想の基本コンセプトである自主的な取れんを阻害する」と反論。

また、急性期から回復期への病床転換については、日医がさまざまな場面で説明してきたにもかかわらず、依然として回復期機能を担う病床が各構想区域で大幅に不足しているとの誤解されていることに強い不快感を示した。

分析はあえて機械的・限定的な分析となっており、これに紹介・逆紹介等の地域の実情を加味して、調整会議での協議を進めて欲しい」とするとともに、協議のあり方についても、「あくまで再検証の対象であり、再編・統合、ダウンサイジングを決定づけるものではない」と指摘。「現状維持」や「機能拡大」といった結論が出て問題はなく、十分な議論による結論が既に得られているところはそのままが良いとの見方を示した。

民間病院の分析及び結果の公表については、調整会議に提出するデータそのものは既に存在しているが、公表は現場の混乱を招くため、慎重な対応が必要と説明。その理由として、①民間医療機

定年後旅行などをしているのんびりできるはずの老世代が、若い世代がアルバイトするような飲食店のサービススタッフとして働いている光景を見て、外国から来た観光客の誰もが驚く。

今の日本は、少子高齢化と人口減少という深刻な問題を抱えている。国は解決策として、高齢者の就業の積極的促進、60歳以上の再雇用制度や定年延長への取り組みを始めた。今後、全世代型社

産業保健委員会

中間答申まとまる



松本吉郎常任理事は、会内の産業保健委員会でこのほど、中間答申を取りまとめ、10月2日に相

澤好治同委員長（北里大学名誉教授）から横倉義武会長宛てに提出したことを報告した（写真）。

本中間答申は、会長諮問「産業医の組織化に向けた具体的方策産業医のスキルアップと活動支援」を受け、5回の委員会を開催して検討を重ねた結果、取りまとめられたものである。

「産業医の組織化」について検討を行うに当たり、基礎情報を収集するため、本年7月、都道府県医師会並びに都市区医師会を対象として実施した、「産業医に関する組織活動実態調査」の結果概要が示されている他、各地域の事業者からの要請に産業医がしっかりと対応できる体制整備に向けて、まずは各地域における既存の組織形態や取り組みを最大限尊重し、早急に既存の組織の全国ネットワーク化を図ることが重要であると提言されている。

具体的には、(1)日本医師会と産業界の懸け橋となっている全国の産業界(部)会等のネットワーク化、(2)認定産業医支援事業の充実・強化——を目的として、現在、日医主催で毎年開催している「都道府県医師会産業保健担当理事連絡協議会」を発展解消し、「全国医師会産業界(部)会連絡協議会(仮称)」(以下、連絡協議会)の設置を提案。

主な構成員としては、「都道府県医師会産業保健担当役員」「産業保健活動推進を目的として設置された組織の長」「日本医師会役員」「日本産業界衛生学会役員」等、後援を依頼する機関は、「厚生労働省」「労働者健康安全機構」「産業界医学振興財団」「産業界医科大学」

しかし、長時間労働の規制によって必ずしも仕事の量やストレスから解放されるとは限らない。時間が増えても、精神的・経済的余裕がないと人生を楽しむ気持ちになれない。

日本の年金制度は、既に破綻状態である。この状況で全世代型社会保障が実現すると、更に個人の保険料負担は増え、年金受給額は減り、人生100年時代のスローガンは名ばかりとなる。人生の目的は、死ぬまで働



「中央労働災害防止協会」を挙げるとともに、各地域での組織化推進に際して、段階に応じた組織形態や事業内容を示した参考資料が添付されている。

また、連絡協議会が現場の産業界から支持される組織となるために、①スキルアップ②情報提供③相談対応④事業場(あそびだ)活動支援——の五つを柱として、産業界支援事業の更なる内容の充実を図るべく検討を深めていくべきとしている。

同常任理事は今回の全国組織化について、「産業界に係る関係団体と手を取り合いながら、囁託・専属にかかわらず全ての産業界に加入して頂きたいという気持ちで活動していく」との考えを示し、「各医師会に設置している医部会や委員会の組織を活用することを考えている。また、組織がないところでも検討頂ければと思っているが、現状では、各地域の医師会を取り組んでいる内容や構成員も異なっているため、無理強いするのでなく、それぞれの医師会で工夫をして取り組んで欲しい」と述べた。

また、本中間答申の基礎資料となった実態調査が100%近い回答率であったことについては、日医が目指す全国組織化に対する各医師会からの

強い期待の表れであるとし、「今後も日医が中心となって、現場第一線で活動している産業界を守る観点から、産業界保健活動に取り組んでいるさまざまな団体と連携しつつ、全国組織化の体制整備に取り組みたい」との考えを示した。

なお、本中間答申については、10月10日に開催した第41回産業界保健活動推進全国会議において説明を行い、全国の産業界(部)会等のネットワーク化への理解と協力を求めた。



■ 計報
 多門氏(元日医理事・元日医監事)
 氏は大正15年福島県出身。昭和26年東北大学医学部卒業。昭和39年シマダ皮膚科医院開設。福島県医師会副会長・会長を経て、平成6年4月から平成8年3月まで日医監事を、平成12年4月から平成14年3月まで日医理事をそれぞれ1期務めた。

平成5年藍綬褒章、平成13年勲四等旭日小綬章を受章している。

10月21日、死去、93歳。通夜が24日、告別式が25日に福島県郡山市内で執り行われた。喪主は、ご子息、康晃様。

「いい医療の日」関連サイトを新設

日医ホームページ内に「いい医療の日」関連サイトを新設しました(関連1面)。より多くの方にご覧頂けるよう、本サイトへのリンクをお願いいたします。

日医広報課

http://www.med.or.jp/people/iiryoy/

第28回被災者健康支援連絡協議会

台風19号の被害に対する各構成団体の活動について情報共有を図る



たい」と述べた。引き続き、台風19号被害への国の対応として、厚生労働省からはD M A T、D P A Tの活動状況、衛生用品等の支援状況等が、文部科学省からは被災地の大学病院へのD M A T及び医師等の派遣状況等について、それぞれ報告がなされた。

また、横倉会長は、加藤勝信厚労大臣の協力依頼を受けて、地域の医師会員に避難所のインフルエンザ対策への協力を求めたことを明らかにした。その他の団体からは、医療保護入院している患者を転院させる際に、患者の同意を取る必要はないという事務連絡が、今回発出されなかったことが問題視された他、「浸水等により、施設の主たる厨房が使用不可能になった際の対応を考慮しておくべきだ」といった意見や、「リハビリを災害救助法に規定された医療の範囲に含めて欲しい」と同協議会として、身分を証明するIDを発行して欲しい」といった要望も出された。

災害救助法の対象見直し等を要望—石川常任理事

冒頭あいさつした横倉義武同協議会代表(日医会長)は、今回の台風19号被害に対する各団体の活動に謝意を示した上で、「今回の被害を踏まえ、従来の災害支援のあり方を変える必要があると感じている。本日、各団体の活動報告を基に、今後の支援体制についても考えていきたいので、本日はよろしくお願ひし

構成団体の活動報告では、石川広己常任理事が日医の活動として、J M A Tの派遣状況や、自身が横倉会長の指示の下、宮城、栃木、福島、長野の各県の被災地を視察したことなどを説明。

更に、今回の短期間に集中して発生した「暴風雨」等によるライブライ

ンや医療施設の被害を踏まえ、①患者のバックトランスファーも災害救助法の対象とすること②厚生労働省の医療施設等災害復旧費補助金や中小企業所管の生業の再建支援(生活・生業支援パッケージ)の適用対象の拡大と申請手続きの単純化を行うべきと主張した。

また、横倉会長は、加藤勝信厚労大臣の協力依頼を受けて、地域の医師会員に避難所のインフルエンザ対策への協力を求めたことを明らかにした。その他の団体からは、医療保護入院している患者を転院させる際に、患者の同意を取る必要はないという事務連絡が、今回発出されなかったことが問題視された他、「浸水等により、施設の主たる厨房が使用不可能になった際の対応を考慮しておくべきだ」といった意見や、「リハビリを災害救助法に規定された医療の範囲に含めて欲しい」と同協議会として、身分を証明するIDを発行して欲しい」といった要望も出された。

防災推進国民大会2019 日本医師会セッション

「災害と医療～レジリエントな地域づくりとは」をテーマに開催



求めるとともに、「今後は感染症や、心の病に対する長期的な対応が課題になる」として、引き続きの協力を求めた。

同協議会では今後も必要に応じて、会議を開催し、各団体の活動に関する情報共有を図る予定としている。

知県医師会の協力の下、「災害と医療～レジリエントな地域づくりとは」をテーマとして、名古屋市内で開催された。

防災推進国民大会(主催：防災推進国民会議、防災推進協議会、内閣府)は、国民の防災意識向上を目的として開催されているもので、日医では毎年、本イベントに出展しているが、今年度も昨

年度に引き続き、シンポジウムセッションの提供を行った。

セッションは、細川秀一愛知県医師会の司会で行った石川広己常任理事は、今年、広範囲の地域に大きな被害をもたらした台風19号並びに19号の被害状況を紹介します。自然災害が激甚化しているという指摘。「災害被害は想定できるものと、どうして想定できないものがあるか、想定外の枠を最大限に広げて対応していくことが求められている」とするとともに、「地域包括ケアを構築する際には、災害対策も考えていくべきである」と主張した。

野田正治愛知県医師会は、団塊世代の男性、高齢の女性、医療的ケアを必要とする子ども達などの災害弱者へ対応するため、県内でICTを活用した在宅介護連携の広域化を進めていることを報告。今後は、救急との連携もしていく予定であるとした。


伊藤一愛知県医師会委員会は、台風による停電の経験を踏まえ、①風速25メートル以上で停電する可能性がある②復旧の時間は台風の強さからは予想できない③停電の際には例え診療できたとしても、できることは限られていることなどを理解しておく必要があると指摘した。

土島智幸医療法人稲生道胆振東部地震により起こったブラックアウト下における、在宅で人工呼吸器を使用している子ども達への対応状況を報告。「日頃から、地域の人達に人工呼吸器を使用している子どもがいることを知ってもらい、地域

被書状況を紹介します。自然災害が激甚化しているという指摘。「災害被害は想定できるものと、どうして想定できないものがあるか、想定外の枠を最大限に広げて対応していくことが求められている」とするとともに、「地域包括ケアを構築する際には、災害対策も考えていくべきである」と主張した。

その後のディスカッションでは、参加者から災害時にどのような医療を提供してもらえぬのか、多くの質問が出された。これらの質問に対して、石川常任理事は医療現場の現状を説明するとともに、各医療機関でも災害対応を考えておく必要があるとの考えを示した。

セッションの最後には、杉田洋一愛知県医師会会長が総括を行い、「災害に備え、日頃から水、電源の確保だけでなく、避難経路の確認もしておく欲しい」と呼び掛け、終了となった。



ニュースポータルサイト「日医on-line」では、定例記者会見の映像等、さまざまな情報をご覧いただけるようになっています。ぜひご活用下さい。

<http://www.med.or.jp/nichiionline/>

日本医師会
人事課 03-3942-6493 総務課 03-3942-6481 / 03-3942-6477 施設課 03-3942-7027 経理課 03-3942-6486 広報課 03-3942-6139 編集企画室 03-3942-6140 医学図書館 03-3942-6482 電子認証センター 03-3942-7050
医療保険課 03-3942-6490 介護保険課 03-3942-6491 年金・税制課 03-3942-6487 生涯教育課 03-3942-6139 編集企画室 03-3942-6140 医学図書館 03-3942-6482 国際課 03-3942-6489

日本医師会設立72周年記念式典並びに医学大会 被表彰者一覧

(敬称略)

日本医師会最高優功賞

◆通算6年日本医師会役員及び都道府県医師会長(1名)
松本純(三重)



◆在任6年都道府県医師会長(3名)
今井立史(山梨)



久米川啓(香川)



河野雅行(宮崎)



◆医学、医療の研究又は地域における医療活動により、医学、医療の発展又は社会福祉の向上に貢献し、特に功績顕著なる功労者(都道府県医師会長推薦)(個人16名)

●精神保健福祉事業に貢献した功労者
斎藤征司(秋田)



●学校心臓検診及び新生児医療に貢献した功労者
星野寿男(茨城)



●医師会活動を通じて地域医療の発展に貢献した功労者
新藤 健(埼玉)



●感染症の予防・対策に貢献した功労者
和田紀之(東京)



●地域医療の発展及び健康スポーツ医活動に貢献した功労者
高橋 章(神奈川)



●学校保健及び地域住民への健康教育に貢献した功労者
斉藤建二(石川)



●医師会活動を通じて地域医療体制の構築に貢献した功労者
熊谷豊一(岐阜)



●介護保険事業及び学校保健活動に貢献した功労者
上原春男(京都)



●医師会活動を通じて地域医療の発展に貢献した功労者
大原重和(兵庫)



●地域における医療・介護提供体制の確立に貢献した功労者
田北武彦(奈良)



●医師会事業及び地域医療体制の構築に貢献した功労者
青山 喬(広島)



●神経内科の啓発・治療・教育に貢献した功労者
森松光紀(山口)



●地域医療の向上及び災害医療体制の確立に貢献した功労者
仁木敏晴(徳島)



●医療の国際協力に貢献著しい功労者
中村 哲(福岡)



●小児保健及び小児救急体制の確立に貢献した功労者
園田勝男(鹿児島)



●地域医療及び公衆衛生活動に貢献した功労者
池原幸雄(沖縄)



日本医師会優功賞

◆在任10年日本医師会代議員(31名)

- 村上壽治(青森) 青沼清一(宮城) 清治邦夫(山形) 金沢和俊(埼玉) 小池哲雄(新潟) 望前洋一郎(新潟) 吉沢浩志(新潟) 渡辺雅晴(新潟) 加藤雅通(愛知) 小串輝男(滋賀) 小野晋司(京都) 井口和彦(大阪) 生野弘道(大阪) 乾 治郎(大阪) 上田真喜子(大阪) 北村俊雄(大阪) 木下利彦(大阪) 小谷 泰(大阪) 澤 芳樹(大阪) 高井康之(大阪) 武井公雄(大阪) 巽 壽一(大阪) 田中孝二(大阪) 豊田紘生(大阪) 杉本茂也(兵庫) 清水信義(岡山) 植田清一郎(福岡) 上野道雄(福岡) 長柄 均(福岡) 蓮澤浩明(福岡)

在任10年日本医師会委員

安里哲好(沖縄) 水谷匡宏(北海道) 山科賢児(北海道) 佐々木悦子(宮城) 福原晶子(山形) 松崎信夫(茨城) 大山昇一(埼玉) 菅野 隆(埼玉) 磯部光章(東京) 井田正博(東京) 大島清史(東京) 角田 徹(東京) 木戸道子(東京) 小林 滋(東京) 迫 和子(東京) 高橋 泰(東京) 竹内 忍(東京) 宮崎亮一郎(東京) 矢口 均(東京) 山本隆一(東京) 内山政二(新潟) 種部恭子(富山) 竹重王仁(長野) 河合直樹(岐阜) 伊藤健一(愛知) 伊藤伸一(愛知) 末永裕之(愛知) 阪本 栄(大阪) 門田守人(大阪) 橋本 寛(兵庫) 清水正人(鳥取) 小竹原良雄(鳥取) 齋藤義郎(徳島) 石黒成人(高知) 寺澤正壽(福岡)

日本医師会医学研究奨励賞

●福山型筋ジストロフィーを含めた糖鎖合成異常症の系統的な解明・治療に関する研究
戸田達史(東大・神経内科学)

●遠藤源樹(順天堂大・公衆衛生学)
●糖尿病とがん・両者を繋ぐ複雑な関係を明らかにするための疫学研究
後藤 温(国立がん研究センター・社会と健康研究センター)

●オートファジー・リンソーム機能を標的とした難治性糖尿病性腎症に対する新規治療法の開発
久米真司(滋賀医大・糖尿病内分泌・腎臓内科学)

●稀少難治性疾患(POEMS症候群)に対する治療戦略の構築
三澤園子(千葉大・脳神経内科学)

●肺炎球菌ワクチン導入に伴う肺炎球菌の遺伝子組み換え機構および薬剤耐性菌拡散原因の解明
中野哲志(京大・臨床病態検査学)

●原発性肝癌における革新的治療開発を目指した腫瘍免疫とサルコペニアの網羅的解析
伊藤心二(九大・消化器・総合外科学)

●難治性耳管開放症に対する診断・治療に関する研究
池田怜吉(仙塩利府病院 耳科手術センター)

●Neurovascular Unitの概念から導きだされる糖尿病黄斑浮腫の病態解明と新規治療戦略
白井嘉彦(東京医大・眼科学)

日本医師会医学賞

●がん遺伝子RETと細胞運動制御因子Gripinの発見と機能に関する研究
高橋雅英(名大・分子病理学)

●健康寿命に関する疫学研究と健康寿命延伸に向けた提言
辻 一郎(東北大・公衆衛生学)

●シナプス結合則から大脳新皮質の基本構築を探る
日置寛之(順天堂大・神経生物学・形態学)

●生体イメージングによるCentral Nervous System Lymphoma病態解明と新規治療法開発への挑戦
宮部齊重(日医大・細胞生物学)

●代謝機構の理解に基づくHitPS細胞由来心筋細胞の作製とその応用
遠山周吾(慶大・循環器内科学)

●ROCKシグナルによるエネルギー代謝調節機構の解明と糖尿病腎症への治療応用
的場圭一郎(慈恵医大・糖尿病・代謝・内分泌内科学)

●脳腎連関を介した腎臓保護メカニズムの解明
井上 剛(東大・CKD病態生理学)

●Clonal hematopoiesisに注目した自己免疫性疾患の病態解明
寺尾知可史(理化学研究所)

●解糖系酵素に焦点を充てた脳アミロイド血管症の病態解明と治療開発
井上泰輝(熊本大・脳神経内科学)

●がん治療と就労の両立支援に関する研究と就労支援ツールの開発

白寿会員 (64名)

松園百合子(北海道)他

米寿会員 (867名)

岡本正敏(北海道)他

案内



第25回日本医師会 認定健康スポーツ医制度再研修会

- ◆主催：日本医師会
- ◆後援：厚生労働省、スポーツ庁（予定）
- ◆日時：令和2年1月13日（月・祝）午前10時～午後4時25分
- ◆会場：日医会館大講堂
- ◆受講資格：日医認定健康スポーツ医
- ◆受講人数：300名
- ◆受講料：日医会員6000円（税込）、非会員9000円（税込）
- ◆申込方法：受講希望者は、日医ホームページ（<http://www.med.or.jp/doctor/ssi/>）からリンクするサイトよりWEB申し込み願いたい。

- ◆申込締切：令和2年1月6日（月）23時59分。ただし、受付は先着順に行い、定員になり次第締め切る。
- ◆主な講習内容：
 - ・「日常診療における運動療法指導（内科系）」（木下訓光法政大学スポーツ健康学部教授）
 - ・「運動部活動（ガイドラインと熱中症）」（川原貴日本スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会委員長）
 - ・「健康経営における運動・健康スポーツ」（岡田邦夫大阪成蹊大学教育学部教授）

「地域における健康スポーツ医の役割」（津下一代あいち健康の森健康科学総合センター長）
 ・「ロコモとフレイル」（松井康素国立長寿医療研究センターロコモフレイルセンター長）

◆問い合わせ先：
 申込方法・入金確認等
 21 東京都文京区本駒込2-28-16 ☎03-3942-6487

「地域における健康スポーツ医の役割」に関しては、専用ヘルプデスク ☎03-6742-0320（平日9:30～18:00）
 18:00～☎seminar_nice@travel.inn.co.jp
 認定健康スポーツ医制度に関しては、日医健康医療第一課 ☎113-8621
 ※当日、会館内に託児所を設置予定。利用希望者は、申込時に申請願いたい。

第6回 医師たちによるクリスマス・チャリティコンサート



- 日時：12月15日（日）12:00開場・12:30開演
- 場所：日本医師会館1階大講堂
- 出演ユニット：合計8組 ※出演順

前半<ポピュラー部門>4組
 愛と讃歌（広島県）
 KU5（福岡県）
 Nossa Bossa Nova（神奈川県）
 佐賀市医師会ジャズバンド（佐賀県）

後半<クラシック部門>4組
 ポナ・ポル・サーノ（宮城県）
 DUO NISHIMURA（愛媛県）
 Joy's Trio（愛知県）
 文京区医師会 音楽部（東京都）



【ゲスト演奏】 溝口 肇（チェリスト）

【司会】 濱中 博久（元NHKアナウンサー）

●入場料：無料（ただし、当日、会場に募金箱を設置し、寄付を募る）
 ※寄せられた募金は、認定NPO法人国境なき医師団日本及び難病の子どもや家族を支援する団体等へ寄付を予定。

●申込方法：鑑賞希望者は、日医ホームページ（メンバーズルーム）から専用申込用紙をダウンロードするか、必要事項〔①郵便番号②住所③氏名④参加人数⑤電話番号⑥FAX番号（FAXで申し込みをする方のみ）〕を漏れなく記入の上、「クリスマス・チャリティコンサート鑑賞希望」と明記し、FAX、メール、郵送のいずれかの方法により申し込み願いたい。

申込者には11月上旬より順次、人数分の入場券（ハガキ）を送付する。

●申込締切：12月10日（火）必着
 ただし、希望者多数の場合は先着順とし、定員になり次第締め切る。

●申し込み・問い合わせ先：
 日医年金・税制課 クリスマス・チャリティコンサート係
 〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
 ☎03-3942-6487（直） 平日9:30～17:00
 FAX 03-3942-6503 ✉xmascc@po.med.or.jp

※未就学児童の入場は、ご遠慮下さい。

日医君LINEスタンプ できました!

日本医師会キャラクター「日医君」

詳しくはこちら


LINE STORE URL <https://line.me/S/sticker/9183104>

南から北から

東京都
大森医師会会報
第118号より

困ったオジサン

小関 治美



近頃、奥歯がうずくよ
うに痛みだしてきた。そ
の歯には毎食ごとに食物
が詰まるようになり、舌
で触ると大きな穴が開い
ているような感じだ。し
かたなく仕事が終わった
後に近所の歯科医院を受
診した。

担当はサッパリとした
性格で、テキパキと仕事
をする好感のもてる女医
さんであった。

「完全に歯がまっぶた
つに割れます。痛く
なかつたのですか。スポ
ーツ選手など噛む力が強
いとこうなることがあり
ます」「このままでは治
療ができないので抜歯し
た方がよいと思われま
す」「分かりました。抜歯
した後、インプラントと
かできますか」「隣の奥
歯が親知らずで、歯の向
きが悪いからインプラ
ントはできません。保険で
できる部分入れ歯がいい
と思います」「入れ歯？」
もうとっくに還暦を過
ぎているのだから当然な
のだが、自分は老人では
ないと思いついてるのだ。
入れ歯には老人のイ
メージしかない。しかし、

他に選択肢はなく抜歯す
ることにした。その後、
部分入れ歯の型取りをす
ることになった。


「どうぞ、うがいして
ください」。口の半分に
麻酔が効いているので、
あらゆる方向に水が飛び出
してしまい、診察室を汚
してしまいました。「スズマ
せん(すいません)」。麻
酔が効いているので滑舌
が悪いのだ。

「止血しますので、こ
の綿をしっかりと噛んでく
ださい」。素直な私は先
生の指が口の中にあるう
ちに強く噛んでしまっ
た。「イタタタタ……」
!!「スズマせん」

山口県医師会会報
山口県医師会
第1896号より

**「アイスクリームの歌」
……あの女の子は今??**

白藤 雄五



私の50年来の愛唱歌に
「アイスクリームの歌」
というのがある。50年以
上前、私が小学生だった
頃、NHKラジオの幼児
向け番組で歌われていた
歌である。昔は王子様や
王女様でも食べられなか
ったアイスクリームが、
今では僕でも食べられる
よ、といったたわいなし
内容の歌であるが、親し
みやすいメロディー、分
かりやすい歌詞で、僕は
すっかり気に入ってしま

らされたと言った方がい
いかも知れない。
しかし、たった3日で
入れ歯をやめるとは何た
るガマンができない情け
ない性格だ。この前も通
信販売の電気刺激で腹筋
を鍛える機械を買った
が、3日ほどやめてし
まい、家内にもつたいな
いと怒られたばかりでは
ないか。本当に困ったも
のだ。

それから数日して、犬
の散歩をしていると女医
さんとバッタリ会った。
「可愛いワンちゃんで
すね。先生とそっくり。
ところで部分入れ歯の具
合はどうですか」「エエ
……少し浮く感じと違和
感がありますが何とか」
この大嘘つき。たった
3日でリタイアしたくせ
は慣れというよりも、慣
れ。

認し、テレビなどという
低俗文化は断固排除す
る、という「ポリシー」
のため、わが家にはテレ
ビがなく、いつもラジオ
がBGMのごとく流され
ていたからである。

で、ある夏休みの夜、
親戚の家に泊まりがけで
遊びに行っていた時のこ
とである。夕食の दौरान
の時に聞いていたテレ
ビでは、ちびっ子のど自
慢大会をやっていた。興
味もなかった流行歌はか
りで聞き流していたが、
ある女の子の順番にな
った時、「アイスクリーム
の歌」と紹介された。僕
は一気にテレビに引き込
まれた。へー、この子も
ラジオを聴いているん
だ。僕は、ぐっと親近感
が沸いた。

「スプーンですくって
ピチャッチャッ、舌に乗
せるとトロントロン、の
どを音楽隊が、通り、ま
す」
この子すごく歌がうま
いぞ。僕はすっかり夢中
になってしまった。この
子優勝すればいいな、優
勝して欲しいな、きっと
優勝するぞ、とヒートア
ップした。

すべてのちびっ子の歌
が終わり、審査発表の段
になった。果たして、そ
の女の子が優勝した。や
ったやっ、とほくは
喝采した。

司会が「さあ、どの賞
品を選びますか?」と言
いながらいろいろな賞品を
紹介した。そしたらその
子は、少し恥ずかしそう
に小さい声で「テレビ」
と答えた。司会がびっく
りした。テレビも確かに
あったが、その中では最
も地味な代物で、「テレ
ビでいいんですか? ほ
ら、〇〇もありますよ、
△△もありますよ」と他
の賞品を促したが、今度
はもっときっぱりと大き
な声で、「テレビがいい
です」と答えた。


僕はその瞬間に確信し
た。そうだ、この子の家
は貧しくてテレビが買え
ないんだ、だからラジオ
を聴いているんだ、この
番組に出て優勝してテレ
ビをもらおう、そう思っ
たんだ。

その子がテレビを選ん
だ本当の理由は分からな
い。けれどもこのできご
とがあったから、アイス
クリームの歌は、更に僕
の心の奥深くに入り込ん
でいって、今でも心の中
でよく歌っているのだ。
あの子の顔など、
全く憶えていない。恐ら
く今は60代半ば、孫の2、
3人はいるおばあちゃん
になっているだろう。消
息が分かれれば、この時の
気持ちを伝えたいなあと思
っている。

岩手県医師会会報
カシオNo.175より

初めて見た!!

川崎雄一郎



初めて見た!!
5月のある土曜日の朝
に仕事に行く準備をしな
がら、2歳半になる息子
を起してリビングに連
れてきてオムツを交換し
ている時でした。息子が
突然「アッ、アッ」
と窓の外を見て指さしま
した。リビングに大きな
窓があるため外の景色が
見えるのですが、息子が
指さした先に、つがいと
思われる2羽のカラスが
じゃれながら散歩をして
いるようでした。

よく見る光景だなくと
気にも留めていませんで
したが、次の瞬間、灰色
の毛むくじゃらの物体が

2羽のカラスの後をつい
てよちよち歩いているで
はありませんか。私も起
きかけて寝ぼけていたの
で思わず二度見してしま
いました。灰色の毛むく
じゃらの物体はよく見る
と鳥のように見えるんで
す。慌ててネットで「カ
ラスの子ども」と検索を
してみると、しっかり書
いてあるんです。カラス
の子どもは灰色なんだぞ
うです。私自身、45年の
人生で初めて目撃しまし
た。カラスの子ども!!
なぜか少しうれいし気分
ちになり、しばし時間が
経つのを忘れてカラスの
子どもに見入ってしま
いました。

数時間後ふと、ある
疑問が頭をよぎりまし
た。あのカラスの子ども
は歩くのも危なっかしい
ほどの子ともだったの
で、当然飛べるはずがな
いだらう……。では、あ
のカラスの子どもはどう
やって高い位置の巣から
地上に降りてきたんだら
うか……。親鳥があえて
下ろしたのか、それとも
巣から転落したんだらう
か……。

今でもカラスを目撃す
ると、あのカラスの子ど
もは元気だろうか? す
でに体も大きくなり黒く
なって、どのカラスがあ
の子どもだったか判別で
きないんだらうかと、ふ
とセンチメンタルに考え
てしまうこの頃です。
(一部省略)

僕が当時、日常的にラ
ジオを聴いていたわけ
は、父親が本屋をやって
いて、自分の店は「文化
の一大拠点」であると自

って、よく口に出して歌
ったりしたものであった。
けれども、同級生らで
その歌を知っている者は
なく、というの、その
当時勃興していたテレビ
にみんな夢中になってい
て、ラジオの幼児番組を
聴いている者などいなか
ったのである。

僕が当時、日常的にラ
ジオを聴いていたわけ
は、父親が本屋をやって
いて、自分の店は「文化
の一大拠点」であると自

って、よく口に出して歌
ったりしたものであった。
けれども、同級生らで
その歌を知っている者は
なく、というの、その
当時勃興していたテレビ
にみんな夢中になってい
て、ラジオの幼児番組を
聴いている者などいなか
ったのである。

僕が当時、日常的にラ
ジオを聴いていたわけ
は、父親が本屋をやって
いて、自分の店は「文化
の一大拠点」であると自

って、よく口に出して歌
ったりしたものであった。
けれども、同級生らで
その歌を知っている者は
なく、というの、その
当時勃興していたテレビ
にみんな夢中になってい
て、ラジオの幼児番組を
聴いている者などいなか
ったのである。

勤務医のページ

勤務医座談会(最終回) 8月2日開催

「勤務医の医師会入会への 動機を喚起するための 方策について」

「特に、若手勤務医を対象に」 をテーマに

若手勤務医が医師会で 活躍するために

泉委員長 どのようにすれば、若手勤務医が医師会の中で活躍できると思いますか。

堀田 京都府医師会で私が関わってきたのは、研修医を対象とした勉強会で、屋根瓦塾といいますが、教わった研修医が次は教える立場になって、教える立場の人は次にブラス長になるという取り組みで、5年以上続いています。

症例ベースの勉強会で、今まであったことのない他院の研修医とグループを組むことがポイントです。他院の研修医がどのくらい実力があるか、皆非常に気になるので、チームを組んでもいい、ブラスを回り、各ブラスで症例のプレゼンテーションを行う指導医がいます。そこで例えば、このタイミングであなたはどのような検査を入れま

すかとか、診断は何ですか、どう説明しますか等ということを行い点数を獲得し、懇親会で表彰するというようなことをやっています。

システムが成熟してきているので、最近ではこれを他の都道府県医師会に輸出し、同年代のドクターと交流しています。

真船 ラパロの手術など、ごく簡単な勉強会というか、困った症例、例えば「私の病院はこうやってヘルニアについて、前はヘルニアについて行ったことがありません。飲み会ついでにそこでスライドを出して、皆でざっくばらんに話すといい具合です。

若手医師の立場から言うと、そういうネットワークとか、バンクなどでもいいのですが、他の病院との連絡が取りやすい環境が欲しいと思っています。

あとは、そうした集まりの際に、医師会の会議室を使わせてもらったりすることです。要するに医師会がこういうのをやりますというのではなくて、何か小さな集まりをつくりたい時に、場所と環境を与えてくれるようなシステムがあったらいいと思います。

志茂 身近なところで、妊娠・出産で辞められた若手の女性医師が多くなります。そして、復職する時には大病院ではなくて、自分のライフスタイルに合わせた形で働き続けたいというところで、自分自身で再就職の病院を探す方も多いです。

また、離職している時のプランをいかに戻すかというところで、学習の部分のサポートもあるとありがたいと思います。

少し時間がかかるかも知れませんが、今から始めないと5年後も10年後も、違う人がここでまた同じ議論をしていると思います。

松本 若手の勤務医に集まってもいい、「場所」と、時間と、費用を提供するから、日本の医療の将来像みたいなものを考えて欲しい」というようなことを、郡市区等の医師会レベルでもいいので、やってみたら良いと思います。

少し時間がかかるかも知れませんが、今から始めないと5年後も10年後も、違う人がここでまた同じ議論をしていると思います。

医のサービスを利用するでしょう。

ではないかと思えます。あと、個人的には医師年金が気になっています。

とが、重要だと思えます。



勤務医座談会出席者	
泉	良平 【司会】(日医勤務医委員会委員長・富山県医師会副会長)
堀田	明 (九州大学大学院医学部研究科循環器外科学教授)
志茂	彩華 (川崎市立多摩病院院長)
堀田	祐馬 (松下記念病院院長)
松本	尚 (日本医科大学千葉北総病院副院長)
真船	太一 (日立製作所ひたちなか総合病院外科)
城守	国斗 (日医常任理事)

【敬称略】